

平成29年度 小松市立高等学校 学校評価(中間)

重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	取り組みの現状と今後の方向	中間評価
<p>1</p> <p>《智》</p> <p>校長はじめ全教員でコメントを記入している家庭学習時間調査をさらに充実させ生徒面談とより密接にリンクさせることによって、生徒の学習意識を一層高揚させ、進路意識の向上へとつなげていく。</p>	ICT機器の積極的な活用を通じて、工夫された授業を展開し、学習内容の定着を図る。	教務課	ICT機器の増設に伴い、多くの教師が「ICTの効果的活用」に取り組んでいる。	【努力指標】 ・「ICT機器の利活用」の状況を調査し、その活性化に努める ・積極的に利活用 よくあてはまる 40回以上/月 あてはまる20～39回以上/月 あまりあてはまらない1～19回/月 全くあてはまらない0回/月	ICT機器を積極的に利活用している(よくあてはまる、あてはまる)教員の割合が、 A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	「よくあてはまる」:26.8%、「あてはまる」:26.8% 計53.6% 今年度、全普通教室にプロジェクターを配置し、ICT機器の環境整備が進み、多くの教員が利活用するようになったが、一方「全くあてはまらない(月0回)」の回答が12.2%あった。ICT機器の効果的な利活用について、教科会等を通して情報を共有する中で、促進を図ってきたい。	B (53.6%)
	アクティブラーニングを実践し、生徒の自己肯定感を高め、問題発見と解決を念頭に置いた深い学びの過程を実践する。	教務課	アクティブラーニングを試行錯誤しながら実践しているが、全体的には活発とはいえない状況である。	【努力指標】 ・「アクティブラーニング」を実践して、生徒が主体的に参加する授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を高めている。 ・よくあてはまる 10回以上/月 あてはまる 4～9回/月 あまりあてはまらない 1～3回/月 全くあてはまらない 0回/月	「アクティブラーニング」を実践して、生徒の自己肯定感を高めるだけでなく、問題発見と解決を念頭に置いた深い学びの過程を実践している(よくあてはまる あてはまる)と思う教職員の割合が A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	「よくあてはまる」:19.5%、「あてはまる」:39.0% 計58.5% 先進校の事例紹介や研究授業を通し、学校全体の取り組みとして、アクティブラーニングの活性化を図ってきたい。	B (58.5%)
	生徒の論理的・批判的思考力を育成するために、総合的学習の時間における個人発表やグループ発表などを取り入れる。また、定期考査問題において、全教科でさらに改善した論述問題を出題する。	教務課	総合的学習の時間には、小論文指導・志願理由書指導などを行っているが、生徒の主体的な取り組みは十分に行われていない。また、昨年度より、定期考査において、論述問題の出題を行っているが、全教科まで十分に浸透していない。	【満足度指標】 ・総合的学習の時間において、生徒の主体的な取り組みが十分に行われている。 ・定期考査において、全教科でさらに改善した論述問題が出題されている。	総合的学習の時間における生徒の主体的な取り組みや定期考査における論述問題の出題を通して、生徒の論理的・批判的思考力が十分に育成されたと思う生徒・教職員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	論述問題の出題について、「よくあてはまる」:58.5%、「あてはまる」:34.1% 計92.6% 論述問題の出題は定着している。適宜、他教科の問題を全職員に配付し、作問の工夫や思考の観点について情報共有を図ってきた。一方、総合的な学習の時間における取り組みについては「よくあてはまる」:7.3%、「あてはまる」:56.1%と 計63.4%であり、改善が求められる。	A (92.6%)
	家庭学習時間調査を通じ、予習・授業・復習のサイクルを基軸とした主体的学習習慣を身に付けさせて、学習意欲の向上と学力の向上を目指す。	教務課	「家庭学習時間調査」を継続して行い、家庭での生活リズムの確立と学習習慣の確立を目指している。なお、家庭学習時間調査には、学校長はじめ全教員でコメントを記入して、生徒の学習意欲の向上を目指している。しかし、平均100分以上の家庭学習をしている生徒は38%と非常に低い状況である。	【成果指標】 ・家庭学習調査に、生徒が具体的に出来るようになったことを日々記入することで、1日100分以上の学習の量だけでなく、学習の質を求めた主体的学習を実践させ、学力の向上を目指す。	「家庭学習時間調査」を通じ、量と質を求めた家庭学習を実践して、学習意欲の向上と学力の向上が図れたと思う生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	「平均100分以上の家庭学習をしている」の質問に対し、「よくあてはまる」:13.5%、「あてはまる」:29.7% 計43.2%となっており、昨年度からは上昇しているが、満足できる結果となっていない。家庭学習時間調査では全職員のコメント記入を続けているが、コメントの温度差が見られるため、共通認識が必要である。また、生徒に家庭学習をさせる工夫を全教職員で検討していかねばならない。	D (43.2%)
	生徒の学力向上と進路実現に向けて、教科担当者や学年団が連携して、十分な家庭学習課題を与え、計画的な家庭学習を進める。また、課題未提出者には、面談等を行い、根気よく指導する。	教務課	計画的に家庭学習課題を与え、継続的な家庭学習を進めている。課題未提出者には、学習時間調査のフィードバックや生活面へのアドバイスなどきめ細かい指導を行い、課題提出の徹底を図るように指導している。	【満足度指標】 適切かつ十分な家庭学習課題が、真に生徒の学力向上に結び付いている。課題未提出者には、きちんと提出するように、きめ細かい指導が来ている。	年間を通じて家庭学習課題がきちんと提出され、計画的な家庭学習が出来ている。また、課題未提出者には、居残り学習の徹底など適切な指導が出来たと思う教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	「よくあてはまる」:61.0%、「あてはまる」:39.0% 計100% 居残り学習の徹底もあり、課題提出の指導は十分である。今後は課題の取り組みの中身に踏み込み、生徒の意識向上を促してきたい。	A (100%)
	各月行われる模擬試験に対し目的を持って取り組み、最後まで高い進路目標に向かって努力を続けさせる。	進路指導3年	センター試験までの10数回の模擬試験が単なる経験を重ねるだけに終わり、真の実力アップにつながっていない懸念がある。各模試ごとに十分な反省と復習をさせ、着実な実力アップにつながっているかを検証しながら模試を進めていく必要がある。	【成果指標】 6月、9月、11月それぞれのマーク模試の得点の15%増、10%増、5%増をセンター試験の得点目標とする。	センター試験の得点が6月マークの得点の15%増以上であった受験生が全体の A 35%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満	7月進研記述での偏差値50以上の人数では、国語32(昨年33)数学XYZの合計で11(19)英語24(19)世史7(3)日史12(2)公民13(23)物理1(7)化基10(5)化学2(5)生基20(21)生物9(4)地基7(11)となっており、文系科目では概ね昨年度を上回っているが、理系科目では昨年度よりも下回っている科目が多い現状となっている。8月の学習合宿では生徒たちの学習に対する意識が向上したことを実感した。今後はセンター試験に向けて個々の得点力アップにつなげていきたい。	年度末に評価
	1年生の習熟度クラス編成や実力テストなどの取り組みを学習意欲の喚起と学力の向上につなげる。	進路指導課1年	高校入学時より進路について考え、適切に進路希望をかなえるための学力の向上を図ることが求められる。	【成果指標】 1年終了時までに組織的、系統的な指導によって学力が伸び、2年時に向けて、また大学受験に向けての土台が築かれている。	国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が 国語:A 50人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満 数学:A 35人以上 B 30人以上 C 25人以上 D 25人未満 英語:A 35人以上 B 30人以上 C 25人以上 D 25人未満	7月進研記述での偏差値50以上の人数 国語63(A)(昨年39)数学15(D)(昨年22)英語25(C)(昨年15)国数英総合15(昨年17)国語で大幅増と好結果が出ている、反面数学では低学力層の多さが目立つ結果となっている。そのため、総合成績の人数も伸び悩んでいる。苦手科目の早急な手立てが必要である。	C
	進路別クラス編成や実力テスト、曜日別教科朝学習、補習・補充などを通して、学年全体として学力の定着と向上、特に中間層の刺激につなげていく。	進路指導課2年	様々な進路希望、学力層がいる中で、学力層に応じた学習指導によって、確かな進路実現を達成するための学力の定着、向上が求められている。	【成果指標】 2年終了時までに組織的、系統的な指導によって学力が伸び、大学受験の基礎が築かれている。	国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が 国語:A 50人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満 数学:A 40人以上 B 30人以上 C 25人以上 D 25人未満 英語:A 40人以上 B 30人以上 C 25人以上 D 25人未満	7月進研において偏差値50以上の人数 国語:43人(C) 数学:40人(A) 英語:35人(B) 各教科とも例年より多少増加したが、2極化の傾向が強い。数学以外は目標到達までは至っていない。偏差値46～50の生徒が国語:46人 数学:19人 英語:35人 となっており、これらの中上位層の引き上げ及び全体的な底上げに向けて教科・学年で具体策の検討が必要である。	B
	3年生の進路別クラスの機能が発揮され、個別指導や補習(放課後・夏季・冬季)・土曜ゼミ等を通して学力を向上させる。	進路指導課3年	個々の生徒・保護者の諸事情により、地元志向が強くなっており、国公立大学希望者や希望先が限定している。これからは全国を視野に入れた進路指導ができるよう生徒・保護者への働きかけが求められている。	【成果指標】 個々の能力に応じた個別指導の充実や補習(放課後・夏季・冬季)・土曜ゼミ等を通して学力を伸ばし、国公立現役合格者数を増やす。	国公立大学現役合格者数が A 25人以上 B 20人以上 C 15人以上 D 15人未満	特に国公立大学に関しては、本校生徒の例年の特徴でもあるが、一般入試向きタイプと推薦入試向きタイプの見極めが今後重要となってくる。特に、推薦入試に向けては早め早めの対策が重要なカギとなってくるため、2学期以降の生徒、保護者、3年担任、進路指導課が連携を強めて万全な体制で受験に臨んでいきたい。基本的にはセンター試験にむけて最後まであきらめない、粘り強い指導をしていきたい。	年度末に評価

平成29年度 小松市立高等学校 学校評価(中間)

重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	取り組みの現状と今後の方向	中間評価
2 《仁》 「交通安全マップ」に不審者情報なども加え進化させ、安全意識・規範意識を向上させる。公職選挙法改正による選挙権年齢の引き下げに対応するため、生徒会活動を活性化し、生徒の政治的教養を育む教育を推進していく。	1 学校生活のあらゆる場面で、しっかり挨拶をする。	生徒指導課 総務課	朝や授業の開始・終了の時はできるようになったが、その他はまだ不十分である。声の小さい生徒が多い。	【満足度指標】 ・挨拶をしている。 ・挨拶で大きな声が出ている。	挨拶が A 常に大きく元気な声でできた B 声を出せるがまだ小さい C できる時とできないときがある D ほとんどできていない	生徒「よくあてはまる」:36.9% 「あてはまる」:41.3% 計78.2% 保護者「よくあてはまる」:25.4% 「あてはまる」:52.6% 計78.0% 数値的にはまずまずだが、肌で感じる部分では自発的な挨拶、元気な挨拶については不十分であると思われる。部活動を中心に挨拶の徹底を図っていきたい。	B
	2 登下校を含め学校で制服を正しく着こなす。	生徒指導課	スカートが短くしたり、上着を正しく着用していない女子生徒がいる。登校時パーカーや指定以外のセーター、カーディガンを上着の下に着用している男子生徒がいる。	【満足度指標】 服装がきちんとしている。	取り組みの結果が4月当初と比べて A 圧倒的に良くなった B 良くなった C あまり変わらない D 悪くなった	生徒「よくあてはまる」:60.2% 「あてはまる」:31.6% 計91.8% 教職員「よくあてはまる」:31.7%、「あてはまる」:61.0% 計92.7% 保護者「よくあてはまる」:35.8% 「あてはまる」:53.0% 計88.8% 数値的には高い。教員側の足並みのそろった指導と生徒の意識改革がさらに求められる。	C
	3 遅刻をなくす。そのために、職員による早朝指導や生徒の個別指導をする。生徒会が主体となつての取り組み。	生徒指導課	寝坊や家を出るのが遅かった等の不注意の遅刻をする生徒がいる。遅刻が多い生徒は、遅刻が悪いという意識があまりない。	【成果指標】 遅刻者数が減少している。	1日の遅刻者の平均人数が A 1人以下 B 3人以下 C 4人以下 D 5人以上	1日の遅刻者の平均人数は、不注意遅刻生徒数が0.96人、通院等の遅刻生徒数が1.91人。合計2.87人。正当な理由がない1日の遅刻生徒数は1人以下で、昨年よりも減少している。例年、後期に遅刻が増加するので、引き続き指導を徹底していきたい。	A
	4 交通安全講話等や登校指導、生徒指導だよりで交通ルールを理解させる。	生徒指導課	昨年度よりも減少しているが、交通ルールを守らない(自転車での並進、二人乗り運転等)生徒がいる。最近、違反者が増加している。	【成果指標】 交通ルールを守らない生徒がない。	年間で、違反生徒の延べ人数が A 50人以下 B 150人以下 C 200人以下 D 250人以上	警察署より報告のあった6月末までの、違反者数は0であった。過去にない良い成果である。しかし、幸い大事には至らなかったが、事故は昨年より増加しているので、引き続き交通ルール遵守の徹底を図っていきたい。	年度末に評価
	5 生徒・職員一人ひとりの環境保護に対する意識を高める。そのために、ごみの持ち帰りや分別を推進し、ごみの量を削減する。	保健環境課	この5年間、ごみ袋の排出量を見て、年度ごとの目標を掲げ、ごみの量を削減してきた。昨年度、目立ったごみは、菓子ごみ・プリント類であった。	【成果指標】 ・ごみ袋の排出量が削減できている。 ・菓子ごみ・プリント類ごみが減少している。	年間ごみ袋の排出量が A 699袋以下 B 750袋以下 C 780袋以下 D 830袋以上	清掃監督の点検業務を確立することで生徒たちは真面目に清掃に取り組んでいる。ゴミの持ち帰りや分別の指導を徹底していきたい。(7月末現在 225袋 前年同期比 -10.0%)	年度末に評価
	6 授業のベルスタートを徹底し、時間のけじめと授業秩序を身につけさせるとともに、質量豊富な授業をめざす。	教務課 生徒指導課 各学年	規範意識が希薄な雰囲気があり、また、授業中集中力が切れている生徒も散見される。	【努力指標】 ・ベルスタートの徹底により、時間のけじめをつけさせる	ベルスタートを常に実践している教師が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	「よくあてはまる」:58.5% 「あてはまる」:36.6% 計95.1% 良好な傾向であり、さらに徹底を図っていきたい。	A (95.1%)

平成29年度 小松市立高等学校 学校評価(中間)

重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	取り組みの現状と今後の方向	中間評価	
<p>3</p> <p>《勇》</p> <p>「英語クラブ」の活動をEnglish Summer Camp(昨年度から小松市内の中学生も参加)などを通して充実させ、イングリッシュ・テーブルが小松市立の中学校に開設されるので、中学との積極的な連携を図る。芸術コースの活動を地域に密着したものにし、小松市民に愛される学校を目指し、これからのグローバル社会に対応できる自己発信力も同時に高めていく。</p>	1	役割分担を明確にし、学校の教育活動の情報をタイムリーに更新し、積極的にHP等を通じて情報発信を行う。またメール配信を活用し、保護者への諸連絡を事細かに実施する。	総務課	H28年度、学校評価アンケート『学校についての情報が十分伝わっている』についての保護者回答結果は、「よくあてはまる」32.1%、「ややあてはまる」56.4%であった。この合計が88.5%であった。年々、状況は改善されてきている。	【満足度指標】 学校評価アンケート「学校についての情報が十分伝わっている」の保護者回答の、よくあてはまるが40%を超える。	学校についての情報が十分に伝わっているについて、よくあてはまるの割合が A 40%以上 B 40%未満35%以上 C 35%未満30%以上 D 30%未満	「よくあてはまる」:35.6% 昨年度同時期(34.5%)よりは改善しているが、本来、学校からの情報は学校(担任)→生徒→保護者であり、保護者にメール配信で直接伝えるべき情報は何かを吟味していく必要がある。	B (35.6%)
	2	生徒のニーズに合った図書やビブリオバトルなど様々な催しを開催し、図書館へ来館させる工夫を図り、図書館を中心として働きかけ、一人でも多くの生徒が本に触れる機会を作る。	総務課(図書)	生徒への貸し出しが、H26年度3556冊、H27年度3971冊と伸びたところへ、昨年度は3425冊と下回った。毎年図書館PRをしていたが、昨年度は、1、3学年が、「読まない学年」だったことが大きく影響している。	【成果指標】 図書館の本の貸し出し数が4200冊を超える。	生徒への本の貸し出し数が A 4,200冊以上 B 4,000冊～4,199冊 C 3,800冊～3,999冊 D 3,800冊未満	7月末 1,615冊(昨年度同時期959冊 一昨年度同時期1,261冊)過去3年間で最も多くなっている。1人1冊運動期間の設定、貸出冊数の上限を上げるなど(例えば通常3冊のところ5冊)の工夫や仕掛けの成果と思われる。今後の動向を見ていきたい。	年度末に評価
	3	生徒および保護者に向けて継続的に進路に関する情報を発信することを通して進路に対する意識を高める。	進路指導課	定期的、継続的に進路情報を提供しているが、全生徒および全保護者に届いていないこともある。特に保護者の理解が進路指導には欠かせない。	【満足度指標】 各学年で、進路指導に関する資料や情報を生徒や保護者がきちんと見ている。	生徒及び保護者が学校から提供される各種進路資料や進路情報に目を通した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒「よくあてはまる」:23.7% 「あてはまる」:54.6% 計78.3% 保護者「よくあてはまる」:29.7% 「あてはまる」:59.7% 計89.4% 昨年度同時期と比べて、生徒(昨年度82%)は低下しているが、保護者(昨年度88.5%)は上昇している。進路情報を流す時期や仕掛けを検討していきたい。	B
	4	生徒が中心の生徒会という意識を持たせ、執行部を中心に学校を活性化していく。	生徒指導課	生徒会執行部はかなり積極的に活動しており、執行部希望の生徒や興味のある生徒は増加しているが、それを全校生徒へ波及させるには、まだ不十分である。	【満足度指標】 ・生徒会活動が活発である。 ・全校生徒が生徒会活動に参加している意識を持っている。	生徒会活動に参加している意識のある生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒「よくあてはまる」:9.4% 「あてはまる」:23.9% 計33.3% 1学期は大きな生徒会行事もないためか大変低調な結果となった。文化祭・体育祭を通して、生徒会活動への参加意識を高めていきたい。	D (33.3%)
	5	文化部の活動を活性化し、校内外の発表や活動の機会を増やす。	生徒指導課	文化部の活動も活発になってきている。校内外での発表の機会が増加している。	【努力指標】 発表や活動の機会が増え、生徒の発信力が養われる。	発表の機会の数が A 40回以上 B 30回以上 C 20回以上 D 20回未満	7月末時点で20回。今後も芸術コースを中心に地域貢献活動が増えると思われる。	年度末に評価
	6	生徒による出身中学校訪問や、中学校との部活動交流会、コース教員による指導会等、入学希望者獲得に向けたPR活動を行う。	芸術コース	中学校訪問の際の、進路担当教諭とのやりとりが終始しており、コースの魅力や現状について、中学生への周知徹底はまだまだである。	【努力指標】 芸術コースからの発信力の高まりにより、中学校の芸術コースに対する興味関心が向上している。	11月の芸術コース体験入学参加者が昨年度と比較して A 増加した B 昨年と同数 C 昨年の80%程度 D 昨年の60%程度	8月体験入学の音楽受講生徒数が昨年と比べ、約20名減となっており、11月コース体験入学参加者も減が予想される。今後の中学校訪問や芸術担当教諭との連絡等、対策を行ってきたい。	年度末に評価
	7	英語によるコミュニケーション能力を高め、積極的に国際交流に参加する姿勢を身に付ける。	英語・国際	今年度、外部英語検定試験を英検からGTEC for STUDENTSに変更した。1・2年生が全員受検する。	【成果指標】 ・GTEC for STUDENTSへの取り組みが英語学習・国際交流の促進につながっている。	GTEC for STUDENTSで次のスコアを取得した生徒の数が A スコア565～814 (L&R&W 485～674) 90名以上 B スコア565～814 (L&R&W 485～674) 80名以上 C スコア565～814 (L&R&W 485～674) 70名以上 D スコア565～814 (L&R&W 485～674) 70名未満	今年度からの取り組みである。英語力の強化とともに新たな大学入試を見据えた対策を実行していきたい。	年度末に評価
	8	意欲的に国際交流事業に参加する生徒の増加と事業内容の充実にも努める	英語・国際	小松市などが主催する各種事業に職員・生徒とも積極的に取り組んでおり、有意義だと感じる生徒もとても多い。一昨年より、本校独自主催のEnglish Summer Campを実施している。	【成果指標】 ・学年や英語部の枠をこえて、English Summer Campに積極的に参加し、生徒の英語学習への意欲が高まっている。 ・English Summer Campに参加した生徒が、学んだ内容を他の生徒にも還元し、「チーム市高」として、国際交流の促進に努めている。	English Summer Campに参加した生徒の数 A 50人以上 B 40人以上 C 30人以上 D 30人未満	本校生徒29名、中学生4名 計33名(昨年度本校生徒25名、中学生4名 計29名) 英語部を中心に参加を呼びかけたが、昨年度比4人増に留まった。Campの写真や動画を使ったPR活動を通して、活性化に努めたい。	C (33名)